

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第3区分
 【発行日】平成20年4月24日(2008.4.24)

【公開番号】特開2006-254052(P2006-254052A)
 【公開日】平成18年9月21日(2006.9.21)
 【年通号数】公開・登録公報2006-037
 【出願番号】特願2005-67282(P2005-67282)
 【国際特許分類】

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

【F I】

H 0 4 N 5/225 F

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月10日(2008.3.10)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

映像信号特性の異なる複数の撮影モードで撮影できる撮像手段と、
 前記撮像手段によって撮影された前記映像信号特性の画像を記録媒体に記録及び再生する記録再生手段と、
 前記記録再生手段により記録又は再生される画像を画像表示装置に表示する表示制御手段と、を有し、

前記表示制御手段は、前記撮像手段の撮影モードに応じて前記画像表示装置に表示させる画像の画質モードを変えるよう制御することを特徴とする撮像装置。

【請求項2】

前記撮像手段の撮影モードは、テレビでの表示に使用するための動画モードと、印刷に使用するための静止画モードとからなることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項3】

前記撮像手段の撮影モードは、動画を磁気テープに記録するテープモードと、静止画を半導体記憶装置に記録するカードモードとを有することを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項4】

前記表示制御手段は、映像信号のブライトネス、コントラスト、ガンマのうち少なくともいずれか2つのそれぞれの制御データからなる複数の組み合わせを記憶した記憶手段を有し、

前記撮像手段の撮影モードに応じて、前記制御データの組み合わせを変えることにより前記画像の画質モードを変えることを特徴とする請求項1記載の撮像装置。

【請求項5】

映像信号特性の異なる複数の撮影モードで撮影して記録媒体に記録及び再生でき、前記記録又は再生される画像を画像表示装置に表示する撮像装置の制御方法であって、

前記撮像における撮影モードに応じて前記画像表示装置に表示させる画像の画質モードを変えるよう制御することを特徴とする撮像装置の制御方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

以上の課題を解決するために、本発明にかかわる撮像装置は、映像信号特性の異なる複数の撮影モードで撮影できる撮像手段と、前記撮像手段によって撮影された前記映像信号特性の画像を記録媒体に記録及び再生する記録再生手段と、前記記録再生手段により記録又は再生される画像を画像表示装置に表示する表示制御手段と、を有し、前記表示制御手段は、前記撮像手段の撮影モードに応じて前記画像表示装置に表示させる画像の画質モードを変えるよう制御することを特徴とするものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

本発明によれば、例えば、液晶表示パネルのようにダイナミックレンジの低い表示装置に対して撮影モードの違いにより映像信号特性の異なる画像を入力しても「黒つぶれ」、「白とび」といった視認性を損なう表示を行うことがなくなり、使い勝手を向上させるという効果がある。